

## 実りの二学期

### 「人に感謝し、人に貢献する」心を豊かにする

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な姿と笑顔が学校中に溢れています。二学期は、子どもにとっても「実りの秋」です。運動会やゆうふれあいフェスタ、授業参観、修学旅行などの行事は、運動に親しむ様子や仲間と関わる姿を通し、日頃の学習成果と子どもの成長を確かめられるときです。

「実りの秋」二学期は、「豊かな心でたくましく生きる梅原の子」を目指して次のことを重視します。

それは、いろいろな人にお世話になって勉強や生活ができていることを感じ「人に感謝する心」と、誰かのために自分にできることをしようとする「人に貢献できる心」です。

始業式には、校長の話の中で「ぼくが髪を伸ばすわけ」の本の読み聞かせをしました。この本は、作者の牛田さん、山口さんが山県市の小学校に寄贈してくださったものです。

本に登場する5年生のこうたくんが、病院で出会った6年生のみさきちゃんのために、自分に何ができるのかを一生懸命に考えて、ヘアドネーションをするお話です。ヘアドネーションするには、30 cm以上の長さが必要で、伸ばすには3年ほどかかります。男の子が3年間髪を伸ばし続けることは勇気もいりますし、とても大変なことです。だれかのために一生懸命になにかをする。こうたくんはそこに喜びを感じていくようになります。

みんながこうたくんのように、だれかのために、自分はなにをすることができるのだろうと考えてほしい。そんな思いから『ぼくが髪を伸ばすわけ』は生まれました。

( ぼく髪ホームページ 作者の思い より抜粋 )

読み聞かせを受け、全クラスが感想を交流する場を持ちました。3年生ではこんな感想が出ました。

- ・3年間もがんばって、あきらめずにやるこうた君はたのもしかったです。
- ・ヘアドネーションをしている途中で「男なのに」と言われたときは嫌だったと思うけど、人のために続けられてすごいです。
- ・だれかのためにやっていることがやさしいと思いました。わたしだったら、友だちが悲しんでいるときにやさしくすることができると思いました。

他の学年でも、成長に応じた感想や二学期の決意を確かめ合う場がもてました。

人間は、けっして、ひとりでは生きられません。お互いが支え合って生きているのです。だれかに優しくしてもらえると、心が温かくなります。そして、今度は自分が誰かに優しくしたくなります。優しさと温かさは次の人へとつながり、またそこで優しさと温かさが芽生えます。そんなふうに地球中が優しい愛の輪でつながっていくことを、学校の生活の中で感じさせたいと考えています。

二学期の学校生活を通し、これまで以上に子どもを見守り、子どもの成長を見ていきます。今学期もどうぞよろしくをお願いします。